



ENGINEER® の MPDP ダイアリー



高崎 充弘

第25回 パートナーとしてのメディア (取材の心得)

[Profile]

東京大学工学部卒業後、三井造船入社。米国レンスラー工科大学で修士課程修了後、(株)エンジニアの前身である双葉工具に入社。2004年に同社代表取締役社長に就任。独自の「MPDP理論」によるニッポンのモノづくり立国を提唱している。

前号では講演の際に大切にしている3つのポイントを紹介しましたが、今回はメディアなどの取材を受けるときに注意していることをお話ししたいと思います。

読者の皆さまの中には、今後、取材のオファーを受ける可能性がある方もたくさんいらっしゃると思うので、私の経験が少しでも参考になれば幸いです。

ネジザウルスGTの発売以降、新聞・雑誌社からの取材依頼がしばしばあります。最初のころは記者の質問から始まっていたのですが、数年前からは、冒頭の30分間でネジザウルスの開発ストーリーとMPDP理論についてお話しさせていただくようにしています。

「会社説明を兼ねてスライドを少し用意したので、ご覧いただけますか?」とお願いすると、ほとんどの記者が快諾してくれます。その媒体の読者層、コラムや企画の趣旨を事前に確認し、2時間の講演会用のスライドから、読者が興味を持ちそうなテーマを取捨選択し、ダイジェスト版を作成してプレゼンします。その後、記者との質疑応答になるのですが、以前と比べてポイントを突いた質問をしてもらえるようになりました。取材する側とされる側に、「2階からビール」(本稿2013年9月号p.29参照)のようなギャップがあるとコミュニケーションがうまくいきません。最初に基本的な情報を共有することがスムーズな取材対応に不可欠だと思っています。

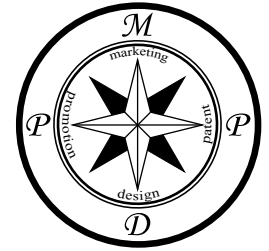
講演会では聴衆の皆さまに直接お話しできますが、新聞や雑誌は取材を通して間接的に読者に伝えるという大きな違いがあります。限られた時間内で記者に十分理解してもらうには、気配りと工夫が必要なのです。

具体的な質問に対しては、営業秘密や[®]情報は別として、できるだけオープンに話すように心がけています。読者が知りたいのは、カタログを読めば分かるような製品スペックや特徴などではなく、開発のきっかけや製品化までの紆余曲折、苦労話だと思います。読者の参考になると思われるエピソードがあれば積極的に話すようにしています。また、開発秘話やストーリー性を盛り込むことで、当社や製品のファンになっていただける可能性もあり、MPDPのP(プロモーション)にもつながります。幸いなことに、これまで当社に取材に来た記者のほとんどは、業界内外の事情に深く精通し、著名な経営者への取材経験も豊富で、「中小企業を活性化したい!」という熱い想いを持っていました。

筆者自身、取材を受けることで勉強になることも多く、記事が完成するまでは、まさに記者との共同作業です。さまざまな意味でパートナー(同志)という気持ちで彼らと付き合うようにしています。「取材に来て楽しかった」「参考になった」と言ってもらえると大変うれしく、掲載紙(誌)が届くのをいつも心待ちにしています。



2011年12月に「がっちりマンデー!!」で放送された「決めポーズ」



ウ：社長はん、前回の対談で、「講演会に来はった人から次の依頼があったりする」言うてはりましたが、メディアはどうでんの？

高：以前、取材に来た記者から声を掛けてもらうケースは結構あるね。MPDP理論や知財活用をはじめ、当社のオープンな社風などを理解してもらっているのので、より深掘りした当社にピッタリの企画を持ってきてくれるよ！

銀：「社員30人中、なんと13人が知財技能士（国家資格）を持って中小企業！」とかでっしゃろ！（^^）

ウ：「9回目にして悲願の3級合格！ ○次郎氏の合格体験記」とか面白いんちゃうかな～？ どこか取材に来てくれへんかな！（^^ㄉ）

銀：アホかっ！ そんな取材、絶対受けへんで！（-_-）

高：取材のオファーがあるかどうかはともかく、「何が何でも、合格するまで決して諦めない」という根性は立派だよ！

ウ：ところで社長はん、テレビにも何度か出てはりますけど、いっちゃん最初は何でしたん？

高：ネジザウルスGTが発売された直後、テレビ東京のニュース番組「HATSU-MONO」という新商品を紹介するコーナーで取り上げられることになった。撮影場所は東京営業所だったので、銀次郎くんにある秘密兵器を超特急で作ってもらって、撮影の小道具として持っていったんだよ。

銀：覚えてまっせ！ ネジザウルスの先端とネジ頭の巨大な模型をウレタンと石膏で作りましたん。

高：おかげさまで、ディレクターや視聴者にネジザウルスの「溝」の特徴がよく伝わったと思うよ。

銀次郎くん、Good Job!!

ウ：アレ、その後もいろんな番組で大活躍してますやん。

銀：「がちりマンデー!!」では社長はんの頭に巨大ネジザウルスがかみつ়シーンが映りましたな（^^）

高：その放送の翌日、電車の中で視線を感じた。じいっとこっちを見てる。「番組を見てくれはったんかな♪でも、ちゃうかな～？」などと想像していた。

しかし、その視線は顔ではなく微妙に頭部へと向けられていて……、疑問は確信に変わった（-_-）

ウ：そんだけインパクト強かったっちゃうことぞんない。

高：以来、この決めポーズは絶対にスベらない鉄板ネタとして、講演会等で使わせてもらってます（^^ㄉ）

銀：2009年8月の「世田谷ベース」も強烈でしたなあ。

高：いつものように家族で見えたら……突然、所さんがネジザウルスGTを持って登場！取材があったわけでも放映予告があったわけでもなく、全くのサプライズ！「ウッフ～、何これ？ すご～い!!」と家中が興奮のルツボ、大絶叫マシン状態。あの時の興奮は今でも忘れられないよ（^^ㄉ）

ウ：縦溝とコマネチ角度も完璧に説明してくれはったし。

銀：やはり、所ジョージさんは天才でっせ！ m(□)m

高：これまでの取材で一番印象に残っているのは、テレビ東京の「ガイアの夜明け」だね。

ウ：2012年の夏から秋にかけてずっと社長はんにも密着してはりましたな。米国出張にも同行しとったし。

高：そういえば、銀次郎くんの自宅でもロケしたよね。

銀：そうでんねん。嫁はんにも取材してもらったんやけど、残念ながら編集でカットされてんねんな……。ウ：銀次郎はんがカミカミやったからちやいまんの？

銀：ちゃうわい！ 100時間撮影しても放送は20分やから、そもそもハードルがメッチャ高いんや！（-_-）

高：取材期間中、ずっと聴いていたオープニングテーマの「鼓動」、エンディングテーマの「夜空の花」に乗ってネジザウルスや新製品の開発シーンが流されて、大感激だったよ！

銀・ウ：社長はんは取材対応が大変でっけど、また来てくれはったらうれしいな～（*^_^*）